

# 個人質問

27人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

全員の個人質問は市議会ホームページのインターネット議会中継で配信しています。

## 健康・暮らし

### Health Life

受援計画策定で防災対応を強化

**問** 平成28年度中に国土強靱化地域計画が策定されるが、その中で受援計画は策定するのか。

**答** 発災時の災害対応に必要な人的・物的資源の不足を補うため、外部からの支援を受け入れる必要があり、手順や役割分担を明確化するなど、受援に必要な体制を整備する必要がある。

策定を進めている、岡山市国土強靱化地域計画では、業務継続に必要な人員の確保や実効性の高い相互応援体制の構築を図ることとしている。応援を迅速かつ効率的に受け入れるための受援計画は、29年度内をめどに策定したい。

薬局と連携した在宅ケア

**問** ※7 岡山市認定在宅介護対応薬局事業の成果や課題を検証し、本市がなすべきことを探るべきでは。

**答** 本事業は、岡山市薬剤師会と連携して取り組んでおり、医師・看護師等と協力しながら在宅療養を支える素地は出来つつある。一方で、十分な訪問活動に結びついていないため、広報紙・ホームページでの周知や、認定薬局が掲載された地図情報を在宅医療・介護に関する専門職向けの研修会等で配布することで、市民や医師・看護師等に役割を認知してもらえよう、市薬剤師会と協働しながら努力している。

今後は、中学校区等の身近な

地域で、認定薬局と医師・看護師等とのマッチングの場を作るなど、在宅ケアにつながる取り組みを進めていきたい。



救急相談ダイヤル「※8 #7119」

**問** 総務省消防庁も普及を目指しており、本市でも導入を検討しては。

**答** 導入するための課題としては、実施圏域の調整や24時間365日対応する医師・看護師等の相談員の確保、費用対効果の分析などが挙げられる。

今後、本市の保健福祉局と消防局が連携して、岡山県等関係者の意見も聞きながら、先行自治体の導入事例を参考に調査・研究していきたい。

家庭系ごみの減量化

**問** ごみの減量を進める新たな対策は。



岡山市ごみ分別アプリは、AppStoreやGooglePlayで無料で入手可能です

**答** 改定中の「ごみ処理基本計画」では、家庭系可燃ごみの約40パーセントを占める生ごみに注目し、堆肥化事業や食品ロス削減啓発事業など、具体的な減量施策を盛り込んでいる。

また、分別啓発を目的として、平成28年9月に発表したごみ分別アプリは、既に1万人に利用されている。

今後も市民と一体で※9 4Rの取り組みを進め、平成27年度に13万3,000トン排出されている家庭系ごみを、37年度には11万8,000トンまで削減したい。



転落防止柵を設置した用水路

平成30年度までに危険性の高い用水路に安全対策

**問** 危険箇所の整備はいつまでに完了するのか。

**答** 一斉点検により危険箇所として把握した約2,500カ所のうち、危険性が高い約950カ所は平成30年度までに完了させる。

その後、この2年間の重点的な対策の効果を確認し、残り約1,600カ所の優先度と対策期間など、整備方針を定めたい。また、町内会などから新たに要望があった場合も、危険度に応じて必要な対策を講じていきたい。

#### ◆用語解説 ※7 【岡山市認定在宅介護対応薬局事業】

在宅医療に関心を持ち、積極的に訪問して薬学的管理指導を行う薬局・薬剤師を増やすことを目的に、所定の認定要件を満たした薬剤師が所属する薬局を「岡山市認定在宅介護対応薬局」に認定し、気軽に在宅医療の相談や訪問に応じる薬局として周知を図り、薬局の活用を促進することを目指す

#### ◆用語解説 ※8 【救急相談ダイヤル「#7119」】

救急車を呼んだ方がいいのか、すぐに病院へ行った方がいいのか判断に困るような病気やけがをした際に、緊急性の有無や応急手当の方法、適切な医療機関等を案内する相談窓口

## 教育・子育て

## Education Child Care

※10 利用調整を点数優先へ見直し  
**問** 保育の必要な子どもが確実に保育園に入れる選考方法とすべきでは。

**答** 本市では、保育の必要性を点数化し、保育園ごとに、その園を第1希望とする児童から点数順に入園決定しているが、第1希望の児童で受入枠がいっぱいになった場合、その園を第2、第3希望とする児童は、点数が高くても入園できない仕組みになっている。

結果的に、保育の必要性が高い子どもが入園できない仕組みなら、現行の第1希望優先から点数優先へ見直す必要があり、より公平・公正になるよう、平成30年4月入園の利用調整に向けて、作業を進めていきたい。



未入園児童の保護者へ配慮を

**問** 認可保育園等に入園できなかった児童の保護者ニーズを把握しているか。

**答** 未入園児童の保護者を対象に、平成29年4月以降の保育状況や保育ニーズを調査する予定にしている。その結果をもとに、保育利用者支援員を活用し、保護者へ受け入れ可能な保育園等の情報提供や保育サービスの案内をするなど、よりきめ細やかなアフターフォローに努めていきたい。

放課後児童クラブの支援員を募集しています！

**問** 支援員不足が課題だが、ホームページの募集情報を改善できないのか。

**答** 本市ホームページでは、放課後児童クラブのページに求人情報を掲載している。

このページへは、本市トップページの「施設案内」と「組織・部署案内」からアクセスすることが可能だが、見つけにくいとの意見もある。今後は「子育て・教育」など関連分野のページからもアクセスできるように改善を図っていく。

弱点が把握できる自主学習ソフトをすべての中学校に導入予定

**問** どのようなソフトか。また、生徒の長所を伸ばすことも考えるべきでは。

**答** 教員や生徒がパソコンでウェブ上から必要な問題を選択し、学習プリントを作成するもの。授業や宿題で一斉に使用することや、生徒一人一人の課題に応じたプリントを作成することで、弱点を補う学習もできる。

また、このソフトは基礎的な問題だけでなく、応用問題も選択できるため、学力をさらに伸ばすことにも活用できると考えており、すべての中学校に導入する予定。

おかやまっ子チャレンジアッププロジェクトがスタート

**問** 県の頑張る学校応援事業は、優良実践校の表彰を引き続き行うが、本市はこの制度を活用するのか。

**答** 平成29年度から独自でおか

やまっ子チャレンジアッププロジェクトを実施し、学力向上だけでなく、地域連携を観点に加え、市民の声や子どもの発表等を材料にして選考、表彰する。学校の取り組みや子どもの頑張る姿をしっかりとアピールすることで、全体のレベルアップが図られるとともに、子どもの意欲向上や学校教育に対する市民の関心が一層高まることを期待している。

本市が独自で取り組むため、県の表彰制度には参加しない。

通学路に防犯灯を設置して  
犯罪防止

**問** 設置要件と現状は。また、要件をどう周知していくのか。

**答** 町内会の要望に基づき、原則、設置予定場所からおおむね100メートル以内に防犯灯や道路照明等がないことを条件に、小学校と中学校が指定する通学路に設置する。平成26年度は47灯、27年度は60灯、28年度は29年2月末で45灯設置、毎年50灯程度を新設している。

設置要件は、本市ホームページへの掲載、町内会へのお知らせ文により周知しているが、今後は、連合町内会の会合で知らせるなど、幅広く周知を図っていきたい。



通学路を照らす防犯灯

### ◆用語解説 ※9【4R】

Refuseリフューズ（発生抑制）、Reduceリデュース（排出抑制）、Reuseリユース（再使用）、Recycleリサイクル（再生利用）でごみの減量化・資源化を進める考え

### ◆用語解説 ※10【利用調整】

入園希望者が施設の定員数を上回る場合に、保育の必要性に基づいて、入園希望者ごとにつけられた点数や、施設希望順位等を踏まえ、市町村が入園を決定すること

## まちづくり・文化 Community Planning Culture



イベントなども開催される石山公園

### 旭川かわまちづくり事業で ワクワクする未来を

**問** 岡山城・後楽園の観光ルートの中で石山公園の役割は。

**答** 現在、旭川の左岸側は旭川さくらみちの整備を、右岸側は水辺近くで景観を楽しみながら散策できる歩道整備を、出石地区はオープンスペースの整備と水辺へのスロープ設置等を行うこととし、完成後は、一帯が劇的に変化すると考えている。

民間活力を導入しながらにぎわいを創出することで、石山公園は今まで以上に中核的な役割を担うと期待され、大きな財産になると考えている。

### 中山間地域等で

#### 小学校区別の地域カルテを作成

**問** 平成27年に実施した実態把握調査の結果は。また、活性化を図る上での地域単位の考えは。

**答** 中山間地域等の24小学校区を対象にアンケート調査を行い、地域活動の担い手となる人材の不足や生活交通の確保、鳥獣被害などが共通の課題として挙げられ、空き家や防犯などの地域固有の課題も把握した。併せて、統計資料等から、地域の人口構成、買い物ができる場所や医療機関などの生活機能を整理し、連合町内会長へのヒアリングや、

婦人会など組織活動の把握を行って、小学校区別の地域カルテを作成した。

また、活性化の支援を行う単位は、地域の実状に応じて、意見を聞く中で検討していきたい。

### 合併10年の瀬戸地域

#### 新市基本計画を着実に推進

**問** 平成29年度予算にどう反映させているか。

**答** ハード事業は、瀬戸地域の新市基本計画を見守る会の意見も聞き、着手が遅れていた事業についても予算案を計上し、計画している11事業すべてに着手する予定。

引き続き、計画期間の33年度を目標に、事業の着実な推進に努めたい。

### 学生のアイデアで定住を促進

**問** 大学生が主体となって取り組む大学生まちづくりチャレンジ事業の内容と進め方は。

**答** 地域課題の解決に向けたアイデアを大学生が提案し、地域の関係団体等と協働で取り組んでいくもの。行政は大学と協力して、必要な情報提供や意見交換等を行い、サポートしていく。

また、優良事例を表彰するなど取り組み結果を広く公表することで、大学生のインセンティブを高め、取り組みの裾野を広げていきたい。

### 新・桃太郎でプロモーション

**問** 「桃太郎のまち岡山」をテーマに都市イメージの発信を掲げているが、具体的な戦略は。

**答** 平成29年度に、ファッションや踊りに敏感な世代をメー

ターゲットに、未来への躍動感を感じさせる新・桃太郎のキャラクターを創り、その衣装として、斬新でインパクトがある桃太郎ファッションを創作する。

併せて、吉備津彦と温羅の伝承の地でもある吉備路を舞台に、新・桃太郎とうらじゃがコラボレーションしたPR動画を制作するとともに、「桃太郎伝説の地 吉備路周遊バス」を運行する予定。また、一連の事業の中で「桃太郎の日」を設定するほか、動画投稿サイトや<sup>※11</sup>SNSなどを活用し、効果的な情報発信を行っていきたい。



### 総合プロデューサーを配置

**問** 新しい文化芸術施設に、企画・制作力を持った人材の雇用や、人材育成など長期的な視野での工夫が必要では。

**答** 公演などを企画・制作する能力を持ち、事業を統括できる総合プロデューサーを配置する。さらに、事業や活動を継続的に展開するために、文化芸術の専門的知識を有し、舞台制作や事業を実施する能力を持った人材を配置し、文化芸術活動の創造支援やにぎわいづくりにつなげていきたい。

今後、本市の文化芸術によるまちづくりを推進していくため、地域と連携して文化事業を企画・実施できる人材を含む体制づくりを進めていきたい。

### ◆用語解説 ※11【SNS】

Social Networking Service（ソーシャルネットワークワーキングサービス）の略で、人と人とのつながりを促進・支援する、コミュニティ型のwebサイトおよびネットサービス。フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどが有名